障がい者福祉情報

157号 2021年3月

編集・発行
社会福祉法人　福岡県社会福祉協議会
〒816-0804　春日市原町3丁目1番地7
クローバープラザ
TEL 092-584-3330　FAX 092-584-3319
http://www.fuku-shakyo.jp/kouhou/kouhou.html

コロナ禍における新しい生活の中で

今年度は日々の暮らしの中で、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた年ではなかったでしょうか。私たちの暮らし、仕事や学校、社会といった様々なところで新型コロナウイルス感染症を意識し、「新しい生活様式」に対応した生活が求められた年だったと思います。

福祉施設や事業所でも、様々な課題が生じています。外部からの接触を極力避けるため、家族との面会制限はもちろんですが、面会ができても窓越しでの会話であったり、様々なイベントや、月に1回程度、自宅に帰ることを楽しみにしている方に自粛をお願いしたりと、余暇活動にも影響が出ており、我慢せざるを得ない状況が続いています。

そのような状況の中、福祉施設・事業所は感染症対策に細心の注意を払っていますが、行政から緊急入所等を求められることもあり、その方が行ってきた感染症対策が不透明なため、高いリスクを背負っています。

さらに、災害時においては福祉避難所としての役割を求められる部分もあり、感染症対策と災害時の支援といった非常に難しい対応も求められています。

また、視覚障がいのある方は、移動時、徒歩や公共交通機関を利用しますが、介助が必要な場合があります。その際、肩に触れたり、近距離での会話等といった対応が避けられないため、外出することが困難になったという声も聞かれます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、社会において、様々な課題が浮かび上がっていますが、次のページでは、このような状況下でも忘れてはならない、「人と人との繋がりの大切さ」について、福岡県福祉情報センター障がい者福祉専門委員会 委員長であり、筑紫女学園大学教授の山﨑安則氏にお話を伺いました。

もくじ／通巻157号

・コロナ禍における新しい生活の中で …… 1～3
・お知らせ …… 4～6
・ほんだな …… 7
・福岡県障がい者福祉情報ハンドブック２０２０　案内 …… 8

筑紫女学園大学　教授　山﨑　安則 氏

プロフィール

東北福祉大学社会福祉学部産業福祉学科卒業。

肢体不自由児施設、重症心身障害児施設で児童指導員として働く。知的障害児通園施設、身体障害者療護施設では、地域療育拠点施設事業のコーディネーターを兼務、現職に至る。

福岡県社会福祉協議会　福岡県福祉情報センター障がい者福祉専門委員会　委員長

コロナ禍における新しい生活の中で

新型コロナウイルス（COVID-19）が日本に上陸して1年が経過した。

全国一斉に発出された4月の緊急事態宣言は、あらゆる分野・領域に想像以上に大きな影響を与えた。

見えない恐怖と不安が蔓延し感染者が急増するという危機感のなか、今、私たちにできることは「命を守る」ということと「感染防止」を最優先に力をあわせて取り組むことではないだろうか。

緊急事態宣言解除後、私たちは第一波の経験から、「3つの密（密集・密接・密閉）」を避ける、マスクの着用、手洗い・手指消毒等の基本的な感染予防対策を習得してきた。

また、私たちは不要不急として職場や学校ではステイホームを奨励してきた。その間、人や社会のさまざまな直接的な「つながり」「交流」を閉ざすことで感染予防対策としてきた。

その一方で、閉塞感や生きづらさを感じる人たちの実態がマスコミなどで報じられた。

改めて、私たちは、「つながり」をどう維持していくのかを再認識しなければならない。

今も、「ソーシャルディスタンス」という言葉を使っている。

大切なことは、社会的に距離を置くことではなく、むしろ人と人の「つながり」を大切にしながら、感染予防のために身体的・物理的な距離を保つことである、という主旨を確認しておきたい。

世界保健機関（WHO）は「ソーシャル・ディスタンス」から「フィジカル・ディスタンス」という言い方に改めているが、今も日本では「ソーシャル・ディスタンス」という言葉が多く使用されている。

新型コロナウイルス感染予防に成功したと言われているシンガポールでは、「セイフ・ディスタンス」という言葉が使用されている。

日本福祉大学 副学長 原田正樹氏は「ふくしと教育」の中で、このように語っている。

感染防止や感染予防が行き過ぎると「排除」や「隔離」につながる。

「私たちはハンセン病患者への反省を忘れてしまったのであろうか。

感染者を「隔離」することに注視しすぎると、「排除」することが当然のことになってしまう。

感染した人のこと、その家族のこと、関係者のことを思いやり、その人たちが安心して治療に当たることのできる社会にしたい。」と述べている。

福岡県内でも、医療や福祉の現場で働いている関係者が周囲から差別され、排除されるといった事態が起こっている。それ以上に、病院や福祉施設に勤務している職員の子どもが学校や保育所でいじめの対象にされたり、通所施設や事業所を利用している人が疑われたり、感染した人が自己責任を問われ離職していく、このような偏見や差別が生じていることは、無視できない悲しい現実である。

コロナ禍では、インターネットによる新たな「つながり」の再構築が注目された。特に、教育現場ではオンライン授業と称して、タブレットを利用した授業が普及した。また、職場では、オンライン飲み会と称してステイホームを楽しく過ごす新たな需要を生み出した。

いずれも急速に拡大しただけに、ネット環境が整わず、ますます格差が拡がったという指摘もあった。

私が勤める大学教育の現場では、前期の授業がオンライン授業となり、教員は教材のデジタル化など多くの作業に追われることとなった。

一方、受講する学生はタブレットなどの受信機が整わずスマホで受講するなど支援が十分に届かないまま見切り発車したところが多く見受けられた。後期に入って、新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せたころから、一部の科目に限り対面式による授業が再開され、後期の授業が終わろうとしていた。

ところが、年末年始の新型コロナウイルス感染症の急速な拡大に伴い、年明け1月7日（木）、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県に2回目の緊急事態宣言が発出された。

これと併せて、「法的な強制力を持って取り締まるべき」として特措法が可決し、施行されようとしている。まさに、個人の自由と社会とのあり方が問われている。

原田正樹氏は、「どんな状況になろうと、人間の尊厳がウイルスに負けてはならない。いや本当はウイルスに負けるのではなく、個人の尊厳を蹂躙しようとする人や社会に負けてしまうのである。」と述べている。

先日、ニュースで流れてきた、新型コロナウイルスのクラスターが発生した保育所に、園児や保護者から励ましの手紙やメールが届いているという。

園児からの手紙には、笑顔を見せる職員2人の絵とともに「せんせいへ　いつもあそんでくれてありがとう　ごめんねじゃないからね」という言葉が添えられていた。

その言葉の意味が、今ほど心に深く届く時はないのではないだろうか。

現在、私たちは第三波の中に置かれている。緊急事態宣言が1か月延長され、3月7日までとなった。

（2月8日　執筆）

文京学院大学　教授　中島修氏は、「新型コロナウイルス感染症治療の最前線で支えている医療・福祉関係者とその家族や福祉サービスの利用者が、なぜつらい目に遭わなければならないのか。大人が正しく、子どもや若者たちを導いていかなければならないことを痛感する。」と訴える。

そして、原田正樹氏は、「感染してしまった人のことを思いやり、最前線で支えている人々に感謝し、今、自分にできることを考える。こんな当たり前のことを、見失ってはいけない。今、大切にしなければならないのは、ボランティアが大切にしてきた世界観だと思う。」と語っている。

コロナ禍における今だからこそ、福祉教育・ボランティア学習の本質が問われていることを思いつつ、地域共生社会への歩みを続けていきたい。

出典：監修・日本福祉教育・ボランティア学習学会「ふくしと教育」2020通巻29号より

「新型コロナウイルス感染と
ボランタリズム」
原田　正樹

「コロナ禍の今こそ福祉教育実践の
必要性を共有する！」
中島　修

お知らせ

『農福連携マルシェ』を福岡市で開催

昨今、全国的に、農業と福祉の連携「農福連携」が注目されています。これは、農業従事者の減少や耕作放棄地の増加などの課題に対して、障がいのある人が農業に携わることで補うとともに、障がいのある人にとっては、就業機会の確保や収入の増加につながるものです。

本県では、「まごころ製品」の中から、主に農産物や農産加工品を販売する「農福連携マルシェ」を開催しています。今年度は、12月6日（日）に、JR小倉駅JAM広場で開催し、多くの県民の方に「農福連携」の取組を知っていただけました。

3月20日（土）には、キャナルシティ博多で開催します。「まごころ製品」の販売はもちろん、楽しいイベントも目白押しです。ぜひご来場ください。

「まごころ製品」をネットで購入いただけます！

ウェブサイト「まごころ製品ショップ」では、障がいのある人がつくる「まごころ製品」をオンラインで販売しています。

お菓子や加工食品、雑貨など素敵な商品を多数取り揃えています。クレジットカード等でお支払いいただけますので、ご自宅用に、贈り物に、ウェブサイト「まごころ製品ショップ」をご利用ください。

【URL】
http://magokoro-pr.com/

障がいのある人に配慮した県広報のご案内

本県では、県の施策やイベント情報などをお知らせする各戸配布広報紙「福岡県だより」の録音版・点字版や、県の魅力などを掲載したグラフ誌「グラフふくおか」の点字版「点字ふくおか」など、障がいのある人に配慮した情報発信を行っています。

これらの配布を希望する人は、次の申込先までご連絡ください。

■「福岡県だより」録音版
（年6回発行）
○形　態
カセットテープ版
CDデイジー版
（読取専用機が必要）
○申込先
福岡点字図書館
TEL　092-584-3590
FAX　092-584-1101

■「福岡県だより」点字版
（年6回発行）

■「点字ふくおか」
（年4回発行）
○申込先
福岡県盲人協会
TEL　092-923-6336
FAX　092-923-6339

【問い合わせ先】
福岡県 県民情報広報課 広報係
TEL　092-643-3102
FAX　092-632-5331

「福岡県障がい者芸術文化活動支援センター」FACTにご相談ください

芸術文化活動を行う障がいのある人やその家族、障がい福祉サービス事業所等に対する相談支援等を行っています。

「音楽やダンスなどで自分を表現したいけれど、どう活動すればいいの？」「絵画作品を発表したいけれど、どうすればいいか分からない。」など、文化芸術活動に関してわからないことやアドバイスを受けたいことがあれば、お気軽にご相談ください。

■受付日時：毎週火曜日～土曜日（日曜、月曜、祝日はお休み）午前10時から午後6時まで

【問い合わせ先】

「福岡県障がい者芸術文化活動支援センター」FACT

TEL・FAX　092-516-0677

※詳細についてはQRコードをご覧ください。

福岡県障がい者スポーツ大会参加者申込みを開始します

本県で開催する県内最大級の障がい者スポーツ大会である「福岡県障がい者スポーツ大会」の申込を開始します。

併せて、大会当日のボランティアも募集いたしますので、興味のある方はご連絡ください。

■競技種目：陸上競技、フライングディスク、アーチェリー、ボウリング、卓球、ボッチャ

■競技日程：令和3年5月1日(土)・9日(日)・15日(土)

【問い合わせ先】

福岡県 スポーツ振興課

TEL　092-643-3991

※詳細についてはQRコードをご覧ください。

〈大会詳細〉

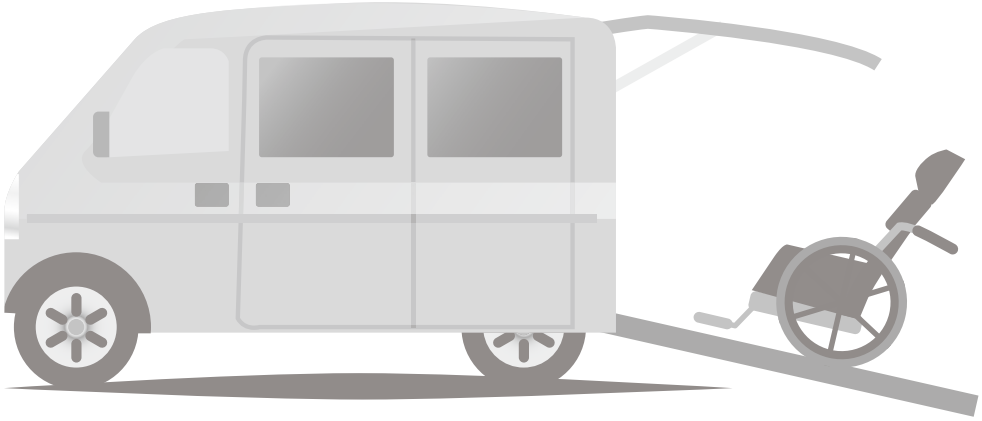
〈ボランティア申込〉

思いやりと譲り合い！「ふくおか・まごころ駐車場」

本県では、障がいのある人、介護が必要な人、妊産婦など、車の乗り降りや移動に配慮が必要な人が、公共施設や店舗を安心して利用できるように「ふくおか・まごころ駐車場」を設置しています。

しかし、利用対象者以外の駐車、有効期限切れの利用証の使用により、困っている利用者がいます。

思いやりと譲り合いが大切です。ご理解とご協力をお願いします。



【福岡県からのお知らせ】

４月２日は世界自閉症啓発デー ４月２日から８日は発達障害啓発週間です。

毎年４月２日は国連が定めた「世界自閉症啓発デー」です。日本では４月２日から８日の１週間を「発達障害啓発週間」としています。

発達障がい啓発講演会

■**日　時**：４月４日（日）13時～16時
（12時から受付）
■**場　所**：クローバープラザ
アリーナ棟２階大ホール
（春日市原町3-1-7）
■**内　容**：坂井聡さん（香川大学教育学部特別支援教育講座教授）による講演「発達障がいのある人とのコミュニケーションのトリセツ」
■**定　員**：400人（※先着順・事前の申込必須）
■**参加費**：無料
■**申込締切**：３月19日（金）17時

《申込・問い合わせ》
福岡県発達障がい者支援センター　ゆう・もあ
☎ 0947-46-9505　FAX 0947-46-9506
E-mail: yumoa2@houtokukai.com

「障がい」に関する基礎知識や合理的配慮のポイントをお伝えします!!

企業・事業所が主催する研修会等に、障がい者差別解消専門相談員が講師として出向き、「障がい」に関する基礎知識や合理的配慮のポイントをお伝えします。

■**日　時**：平日・土日・祝日（年末年始を除く）
10時から20時まで
■**会　場**：会場の手配、使用料等は、申込者負担
※会場は、福岡県内限り　※座学形式
■**講師派遣費用**：交通費の支給や謝礼等、不要

《申込・問い合わせ》
福岡県障がい福祉課社会参加係
☎ 092-643-3264　FAX 092-643-3304
E-mail：shakaisanka@pref.fukuoka.lg.jp

聴覚障がいのある人への支援者養成講座（予定）

聴覚障がいのある人への情報提供を支援するために必要な知識・技術が習得できる講座を予定しています。

手話通訳者養成講座

■**対　象**：
手話検定２級以上に合格しており、日常的に手話活動をしている県内在住の18歳以上（令和３年４月１日現在）で、手話通訳者として県内での活動を希望し、以下の条件を満たす人
（通訳Ⅰ）手話奉仕員養成講座修了者
（通訳Ⅱ）上記（通訳Ⅰ）修了者
（通訳Ⅲ）上記（通訳Ⅰ）、（通訳Ⅱ）修了者
※全講座の８割以上出席できることが条件です
■**期　間**：
（通訳Ⅰ）４月開講予定（約６ヶ月間）
（通訳Ⅱ）10月開講予定（約６ヶ月間）
（通訳Ⅲ）５月開講予定（実習修了まで）
■**場　所**：クローバープラザ
（春日市原町3-1-7）

※参加費無料（テキスト代別途要）
※要申込（先着順）

《申込・問い合わせ》
福岡県手話の会連合会
☎ 092-584-3649　FAX 092-584-3649

要約筆記者養成講座

■**対　象**：県内在住の18歳以上（令和３年４月１日現在）で、要約筆記者として県内での活動を希望する人
■**期　間**：５月開講（約10ヶ月間）
■**場　所**：クローバープラザ
（春日市原町3-1-7）

※参加費無料（テキスト代別途要）
※要申込（先着順）

《申込・問い合わせ》
福岡県聴覚障害者協会
☎ 092-582-2414　FAX 092-582-2419

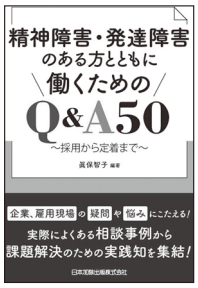
ほんだな

福祉情報センターでは、福祉に関する図書・ビデオの閲覧・貸出を行っています。

●利用時間　９：００～１７：００
●休 館 日　月曜日（祝日の場合は翌日・第４月曜日は除く）
●貸　　出　図書・ビデオ・ＤＶＤ　合計１０点まで
※貸出の際は、クローバープラザ利用者カードが必要です。
※遠方の方や外出が困難な方のために配送での貸出返却も行っています。（送料実費負担）
●貸出期間　２週間以内
●問い合わせ先　福祉情報センター　〒816-0804　春日市原町３丁目１番地７
クローバープラザ東棟２階
TEL　０９２－５８４－３３３０　FAX　０９２－５８４－３３１９

精神障害・発達障害のある方とともに働くためのＱ＆A50　～採用から定着まで～

眞保　智子　編著　　出版：日本加除出版



採用、実際に働いてから定着に至るまでなど、雇用の様々な場面における実践知を学べます。
障がいのある方とともに働く職場づくりに精通している企業の経営者や人事担当者、地域の就労支援を担う専門職や医師、研究者など総勢24名による執筆です。

障害のある子が「親なき後」も幸せに暮らせる本

鹿内　幸四朗　著　　出版：大和出版

30年後、私たちが死んだら“うちの子”どうなる？
逃げられない現実にどう向き合い、手を打っていったらいいのか。「親心後見」「とりあえず遺言」「財産管理委任契約」など、子どもの一生を守るために今から親がすべきことを記した一冊です。

障害がある子どもの時計・お金の基礎学習

宮城　武久　著　　出版：学研教育みらい

障がい児者の自立のためのスキル獲得をあきらめない！保護者からの希望も多い、実生活に関わる学習指導として、アナログ時計を読む～時間のたし算・ひき算、お金を数えて金額を言う～正しく支払う、パズル絵の形を理解して正しく並べるなどのスモールステップの指導方法を紹介した一冊です。

DVDでよくわかる 基本の手話 すぐに使える会話と表現　新版

野口　岳史　監修　　出版：メイツ出版

初めて手話を学んでみようとする人を対象に、手話の基本的な言葉から日常でよく使う実用的な会話までを紹介しています。
手や指の動かし方、表情、体の動きなど手話を使うときに大切な事項を写真や説明文で解説した一冊です。

福岡県障がい者福祉情報ハンドブック2020

発行　福岡県社会福祉協議会（福岡県福祉情報センター）

価格　１部　１，３００円（税込）　Ａ４判 ４８９頁

★障がい者福祉制度・施策を満載

1　手帳制度
2　保健・医療・衛生
3　日常生活援助
4　教育・育成
5　療育・訓練
6　年金・手当
7　税金
8　就労
9　まちづくり・ボランティア
１０　住宅
１１　移動・交通
１２　教養・余暇・スポーツ
１３　情報・通信・コミュニケーション

★県内における障がい福祉サービスの利用状況等を掲載

★県内全市町村の実施する地域生活支援事業・地域生活支援促進事業を網羅

・　相談支援事業
・　意思疎通支援事業
・　日常生活用具給付等事業
・　移動支援事業
・　地域活動支援センター機能強化事業
・　その他の事業

★各種相談窓口、施設名簿、地域活動支援センター等を掲載

購入を希望の際は、下記窓口にお越しいただくか、申込書に必要事項を記入のうえ、ＦＡＸまたは郵送でお申込みください。

障がい者福祉情報ハンドブック２０２０　申込書			
申込部数	部	×１，３００円 ＋ 送料　が 御請求額になります。	
氏名・団体名		担当者名	
送付先	〒		
TEL		FAX	
備考			

送　料：１部まで ６１６円（九州内※離島除く）、２部以上４部まで ７４８円
５部以上及び九州外、離島の送料は、下記へ問い合わせください。

【申し込み・問い合わせ先】
福岡県社会福祉協議会　県民サービス部　人材・情報課
〒816-0804　春日市原町３－１－７　クローバープラザ東棟２階
ＴＥＬ　092-584-3330　ＦＡＸ　092-584-3319